ZOIDS SAGA2.5:α

AXES

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ゾイドバトル…

特定のフィールドに、ゾイドとゾイドを闘わせる競技のことだ。

これは、一人の少年と、一体のゾイドが、ゾイドバトルを闘い抜く話である。

目　次

BATTLE―01．イージスの獅子 ―――――― 1
BATTLE―02．剣聖の竜 ―――――― 4

ＢＡＴＴＬＥ―０１．イージスの獅子

惑星Ｚｉ…地球より遥か遠くにある星…
そこには、意思を持つ機械生命体，ゾイドが棲んでいる。
ゾイドは、人を時に助け、時に共に戦い、
時に共に旅をする。
そして、ゾイド共に戦う人をゾイドウォーリアーと呼んだ……。
そして…数億年の月日が過ぎた…。
このギアコロニーに、ゾイドウォーリアーを志す少年がいた…。
ギアコロニー周辺，森林…
???「よし…ここなら…！　もうちょい…、あと少し…、そこっ！」
光学迷彩フードを被り、スナイパーライフルを構えた少年が、そこを歩いていたモルガのウェポンラック基部に狙いを定めて、撃ち抜いた。
「よしっ！さて今日は…と。
よしっ！レールガンだ！
こいつは高いぞ。」
この武器をホバートラックに積み込んでいる人が、アラン―イファルティア…金を貯めて、いつか
最高のゾイドに乗ることを目指している。
そして…アラン宅。
「今日の報酬は…と、これぐらいか…。
まあ、いいか。…はぁ…、ライガーかタイガーらへんこないかなぁ…。」
数日後…
???「わぁぁぁー！暴走ゾイドだ！逃げろ！」
アラン「なんだ？ゾイドか？」
とアランか自宅から出ると、赤と白のカラーリングをしたライガー型のゾイドが吼えていた。
謎のライガー「　ガォォォォ！」
村人「わっ！こっちに来ないでくれー！」

アラン「早く逃げろ！」
村人「わ、わかった。」
村人が、ここを立ち去ったあとに
アランはライガーを睨み付け、言った。
アラン「おまえ、俺とゾイドウォーリアーにならねぇか？」
ライガー「グルルルル…」
アラン「ライガー…」
その時、
???「いまだ！この忌々しいライガーを始末しろ！」
モルガキャノリーの一斉砲撃がライガーを襲った。
しかし、
ライガー「グゥウオォ！」
ライガーのハイパーEシールドによって一斉砲撃は届かなかった。
アラン「ライガー…俺を守ってくれるのか？」
その時、アランはライガーのコクピットに吸い込まれた。
???「なんなの？このゾイド？」
木陰から見ていた女性がいたが、アランの知ることではなかった。
アランは、ライガーのコクピットにいた。
「なんだ、こいつは？…イージスライガー？
こいつの名か。なら…いくぞ！イージス！」
イージスライガー「グォォォン！」
この時、ライガーとアランは、とてつもない一体感を感じた。
アラン「うぉぉぉ！」
ライガーは、隊長機らしきアイアンコングに向かって噛みついた。
しかし、その程度ではアイアンコングを倒せない。
アイアンコングが、その大きな腕を振るってライガーを投げ飛ばした。
「クッ…何か武器は無いのか！」
その時　ライガーのモニターに
「ブレードストライクレーザークロー」
が出た。

アラン「こいつなら！」
「うぉぉぉ！ブレードストライクレーザークロー!!」
ライガーの爪にエネルギーが伝わり、クローが光った。
そしてライガーは、アイアンコングに向かって爪を剥いた。
その一撃で、アイアンコングは、戦闘不能になった。
「くそぅ…覚えてろ！」
アイアンコングは、残った左腕で、やって来たレドラーに捕まって、逃げ出した。
アラン「ふぅ…何とかなったな。
とりあえず、よろしくな、」
イージスライガー「ガルーゥ！」
そこにアランとイージスライガーのコンビが出来た。
一方
何処かのアジト
幹部らしき人物「貴様！貴重なコングに傷を付けおって！」
エースらしき人物「やめろ。個々で言い争ってもコングは直らんな。」
隊長らしき人物「くっ…」
そう言うとエースらしき人物は、
仕方ない…私が行こう。
ザウラーの調整も終わったからな。」
首領らしき人物「可能ならそのライガーを捕まえろ。駄目なら…分かっておるな。」
「分かっている。その時は…破壊する。」
そう言い、ザウラーのパイロットは格納庫へ向かった。

ＢＡＴＴＬＥ―０２．剣聖の竜

イージスライガーとアランは何処かも解らない荒野を走っていた。
「んー…ここから一番近い街は…と
ガリルストーム闘技場か。よし、いくぞ！ライガー！」
「ガォォォォ！」
ライガーは、近い闘技場に向かって駆け抜けた。
その道中に、１体の恐竜型ゾイドが、襲ってきた。
エースらしき人物「こいつがターゲットのゾイドか！なるほど、強そうだな。」
アラン「お前！何者だ！」
カイル「フッ…私はカイル…カイル，ワーグナーだ。
こいつは俺のゾイド、ジェノザウラーブレードだ。
決闘を申し込む！」
「決闘!?」
「そうだ。あそこにちょうどいい闘技場があるではないか。なら！そこでまっているぞ！
２ｖｓ２だ、覚えておけ！」
そう言うと、ザウラーは、立ち去った。
「…何者なんだ？あいつ？」
そのとき、オープンチャンネルで、通信が、入っていた。
???「まさか、あいつに目をつけられたとはな。」
その後、空から一体のゾイドが降りてきた。
「なんだ？このゾイドは？プテラス？いや、違う！」
???「良く解ったな。こいつはストームレイノス改、
そしてアタシは、レィナ、レィナ，フィルラだ。」
アランは、反射的に、自分の名を言った。
「俺はアランだ。そしてこいつはイージスライガーだ。」
（ん…こいつは、まさか、エンシェントゾイドか？
いや、まさか…な。）
「あんた、チームメイト探しているだろう。」

「な…何故解った!?」
「顔をみれば、解る。」
「そんなもんか?」
　レィナは笑いながら応えた。
「そんなものさ。」
「うーむ…」
「さぁ、とりあえずアタシとお前は、チームだ。
　まず、ガリルストームにいくぞ。」
「お、おう。」
　その道中、アランは思った。
（まぁ、なんやかんやで2人になったから、決闘とやらはできるようにはなった…か。）
　そう言って、アランとレィナは、ガリルストームに急いだ。
　そして…ガリルストーム闘技場…
　カイル「遅いぞ!だが、その様子だと、パートナーは見つかったようだな。」
「お前がカイルか。宜しく頼む。」
「さぁ、決闘のはじまりだ!」
　ジャッジマン「チームアランｖｓチームGトルーパーズ!」
「ゾイドバトル…レディ…ゴォ!」
　アラン「うぉぉぉ!」
　ライガーは早速ジェノザウラーに噛み付こうとした。
　しかし、
「効かんな。こんどはこっちの番だ!」
　と言うと、ザウラーの背部レーザー砲を射ち出した。
　だが、
「ライガー、シールドだ」
「ガォォォ!」
　イージスライガーは、ハイパーEシールドを張った。
「くっ…しかし!」
『ぐわぁぁぁ!』

「何!?」
「アタシのストームレイノスをなめるな。」
「なっ…レブラプターＲ２がやられたか。だが！
これで終わりだぁぁぁ！」
カイルがそう言うと、ザウラーの口が開いた。
「何をする気だ？」
『いかん！避けろ！アラン！』
「なにっ！」
その時、ザウラーの口から物凄い太さのビームをだした。
「くぅぅぅっ！何なんだよ！あれ！」
「あれはジェノザウラーの武器の一つ、荷電粒子砲だ。」
「だが、お前も只では済んでないよな！」
「何っ！」
その時、ザウラーの右脚が、音を立てて破壊された。
「なにをした！」
（カウンターシールド。ビームしか防げないが、そのエネルギーを相手に放射するんだ。）
そして、バトルは、相討ち、即ち引き分けに終わった。